

【資料紹介】縄文時代晩期の土偶、青森市浪岡地区採集資料

杉野森 淳子¹⁾

Introduction of Dogu in the Jomon period final stage and Collection in Namioka area, Aomori-city

SUGINOMORI Junko

キーワード：結髪土偶、玉清水 (1) 遺跡、大曲遺跡、サイコロ形土製品、中平遺跡

はじめに

平成 27 年以降、考古資料は 12 件 425 点寄贈されている。資料の大半は受け入れした翌年の新収蔵展にて公開してきた。公開後のさらなる調査により明らかとなったこともある。未公開資料についても展示や紙面での公開に向けて調査・整理作業を進めている。今回はその中から、土偶 2 点と青森市浪岡地区採集資料 17 点について紹介する。

1. 土偶（登録番号 2422-1）（図 1、3～5）

鱈ヶ沢町建石地区で採集された資料で、頭部から右腕部にかけて残っている。頭部と右腕部は中実、胴部は中空（内部が空洞）である。残存する高さが 18cm であることから、本来は 30cm 近い大型の土偶と推測される。中空部の粘土の厚さは 5mm と薄い。顔部は左右に広く前に突き出ている。目・鼻・口は大きく立体的であり、顔の両側には貫通孔がある。頭頂部は大きく扇形に盛り上げられている。その上に沈線文様と貫通孔が 4 つ施されている。後頭部の沈線文の間には縄目文様の痕跡がわずかに残っている。顔や頭部には赤色顔料が明瞭に残っている。胴部の文様は刺突文のみで、胸に併行して 2 列の刺突が巡らされており、この刺突は貫通している。頸部には粘土帯を巡らしその上に 2 列の刺突が巡る。

縄文時代晩期（3,000 ～ 2,300 年前）の土偶は、晚期中葉までは亀ヶ岡遺跡の遮光器土偶（重要文化財）に代表される「目」に特徴があり、全体を装飾されるものが隆盛する。晩期後葉以降は、目を中心とする全体的な装飾は少なくなり、施文文様は簡素化していく。顔の表現は写実的となり、胴部の縄目文様も減少する。仮面を被ったような顔の突き出た土偶や、頭頂部を大きく盛り上げて髪型を表した土偶「結髪土偶（けっぱつどぐう）」が増えるのもこの頃の特徴である。

この土偶は、縄文時代晩期後葉の「結髪土偶」「仮面を付けた土偶」の一種である。なお、顔部が仮面であれば両側の孔は仮面に紐を通す孔を表現したとも考えられる。また、頸部の刺突は首飾りを、頭頂部の 4 つの孔は髪飾りを表現しているようにも見える。

この土偶は、つがる市（旧森田村）の故 石田吉四郎（いしだよししろう）氏が所蔵していた資料である。鱈ヶ沢町建石地区の土偶の発見者から昭和 44 年以前に石田家に持ち込まれた。持ち込んだ際に吉四郎氏が不在であったため、発見者の詳細については不明である。

石田吉四郎氏は、商店の経営者である一方、地域の歴史や考古学の有識者でもあった。特に、自宅兼商店に近い石神遺跡（つがる市森田町床舞）の調査・保存に携わり、昭和 40 年代には遺跡保護のため地域の有志とともに「石神遺跡保存会」を結成している。現在、重要文化財および県重宝となっている石神遺跡出土品には、当時石田氏が収集したものも含まれている。また石田家から「当時、建石地区の住民は石田商店を利用することが多かった」と伺った。土偶の発見者は石田氏の活動を知り、資料を石田氏に託したものと推測される。

土偶を受け取った石田氏は、土偶専用の箱を設計し、専門業者が製作している。箱を包んでいる風呂敷は箱製作当時のものである。箱と風呂敷は土偶の付属品として寄贈されている（図 5-①）。

土偶の写真パネル（図 5-②）は、石神遺跡保存会の仲間であり、長年の友人である故 佐藤時男氏が撮影したものである。写真パネルは現在も石田家に保管されている。

また昭和 45 年頃、慶応義塾大学江坂輝弥氏と弘前大学村越潔氏がこの土偶を石田家で実見した際に、「顔の部分は仮面」と言われたことから、その後は「仮面をつけた土偶」として紹介されている（例『図説ふるさと青森の歴史シリーズ③北の誇り・亀ヶ岡文化 縄文時代晩期編』128 頁）。

この土偶が採集された鱈ヶ沢町建石地区にはリング園や畑地が多く、昭和 20 年代から考古資料が発見される場所

1) 青森県立郷土館 主任学芸主査（〒030-0802 青森市本町二丁目 8-14）

として知られていた。現在、この地区に遺跡は10か所あり、その中に縄文時代後期から弥生時代の犬曲遺跡、縄文時代晩期の建石(3)遺跡がある。図4は建石地区で採集された縄文時代晩期の土偶であるが、遺跡は特定されていない。当館収蔵品にも犬曲遺跡で発見された土偶が6点ある。これらは新谷雄蔵氏が収集した資料であり、平成20年に寄贈された資料群の一つである。土偶は縄文時代晩期末から弥生時代前期にわたる。図5-③はそのうちの一つであり、弥生時代前期(砂沢式期)の結髪土偶(登録番号2023-153)である。高さ15cmの中実土偶で、目と両足の付け根部分の表現が特徴的である。頭頂部は左右を高く突出させて結髪を表現している。一部に赤色顔料が残っている。弥生時代になると全国的に土偶は作られなくなるが、北東北地方では弥生時代にも土偶は作られ、その製作技法は縄文時代から受け継がれていることがこの土偶からわかる。

土偶2422-1は、土偶2023-153と製作技法(結髪、赤彩、沈線文施文など)に共通する部分がある。文様構成から時期的には弥生時代になる直前の縄文時代晩期末のものと考えられる。なお出土地は犬曲遺跡の可能性が考えられるが、発見経緯が不明であることから、地名での表記とする。

2. 土偶(登録番号2380-1)(図2、6)

青森市玉清水(1)遺跡で発見された縄文時代晩期初頭の中実土偶である。残存する高さは17cmほどであるが、本来は30cm近い大型の土偶と推測される。頭部と胴部の大きさは実際の人間に近い比率でつくられている。眉は弧状に盛り上がり、目は粘土紐で縁取りした中に横線が引かれている点は、後の遮光器土偶につながる表現である。後頭部は「の」の字状の隆帯をなす。胴部には玉抱き三叉文が描かれている。全体に赤彩痕が残ることから、当初は全身赤く塗られていたと思われる。背面の破損部には、土偶製作時に胴部から頭部に軸となる棒を通した痕跡と思われる直線状の孔がある。

この資料は『小杉嘉四蔵 蒐集考古学資料写真集〔玉清水(1)遺跡〕』(青森縄文文化を探究会 1988)で紹介されている(図6)。頭部はカラー写真、胴部は白黒写真で掲載されている。土偶は小杉氏とともに昭和40～50年代に資料採集をしていた方が所有していたもので、平成28年度に遺族から寄贈された。その後は考古常設展示室で亀ヶ岡遺跡の遮光器土偶レプリカと並んで展示していたものである。

3. 土製品、石器(登録番号2409-1～17)(図7～9)

青森市浪岡野沢地区で採集された資料で、採集地は現在の中平(なかだい)遺跡に相当する。野沢地区には、縄文時代と古代を中心に中世・近世までの遺跡が多数存在する。中平遺跡の中にある旧野沢小学校より北側の吉野田地区は地元ではタケハラコと呼ばれている。中平遺跡北端に位置する河川に下る台地際は、昭和初期から土器・石器が出土する場所として知られていた(当時は、中平遺跡の範囲外)。昭和10年3～4月に角田文衛氏と喜田貞吉氏、佐藤薊氏が旧野沢小学校にてタケハラコ出土の遺物を調査し、この結果を昭和10年12月刊行『考古学評論』1-2で「陸奥に於ける薄手式土器に就いて」と題し紹介している。さらに昭和12年には旧野沢小学校に勤務していた葛西寛蔵氏が『青森県郷土誌料集』1(青森県立図書館 1937)にてタケハラコ出土の土器について論じている。タケハラコ出土の土器は、縄文時代後期(3,500～3,000年前)が主体である。

寄贈された鐔形土製品と石器は昭和44・45年頃にタケハラコの台地縁辺の斜面で地元の小学生が採集したものである。当時このあたりの水辺や原野は子どもの遊び場であり、遺物収集は子供の楽しみのひとつであったと伺った。寄贈された石器はテグスで一つ一つ板に固定されていた。採集者が資料を大切に保管していた様子がうかがえる。

サイコロ形土製品は、旧野沢小学校近くの耕作地で土地の所有者が20～30年前に発見したものである。

① 鐔形土製品(2409-1)(図8-②)

高さ5.2cm・胴径4cm・底径2cm。体部に平行して6本の沈線を巡らしている。体部上位の沈線と沈線の間には弧状文が5個ある。上部にも沈線が1本巡る。上面から体部に向かい孔が貫通している。貫通孔の大きさは上面で直径3mm、下面直径1mm。縄文時代後期初頭。

② サイコロ形土製品(2409-2)(図9-①)

四隅が一部欠けているが、サイコロの形状・数字の目が判別できる。土で一辺1.15cmの立方体を作り、棒を刺して数字の目を表現している。現代のサイコロと比較すると、相対する面の和が7になる点は共通しているが、数字の目の配列は異なる。重さは1.8gと軽い。

※関連資料 サイコロ形石製品(図9-③)(青森県埋蔵文化財調査センター所蔵)

平成19年に青森県埋蔵文化財調査センターで実施した中平遺跡の発掘調査で、平安時代(9～11世紀)の堆積層から石製サイコロが出土している。凝灰岩を一辺約1.4cmの立方体に成形し、墨書の黒丸で数字を表している。数字面の配置と数字の配列は、現代のサイコロとは異なる。相対する面の和は7にはならない。数字「1」の目は、面の隅にある。長さ1.4cm・幅1.3cm・高1.5cm・重さ4.6g。

近世以前のサイコロは、考古資料のほか現存する歴史資料から全国で 10 ケ所以上確認されている。素材は土・石・木・骨・陶磁製等がある。対面する和が 7 になるよう配置されるのは近世からである。中世の段階は 7 になるものとならないもの両方みられる。関連資料を含む先行事例から、当資料は中世から近世のものと考えられる。

③ 石器 (2409-3 ～ 17)

内訳は石鏃・石槍 9 点 (3 ～ 9・12・16)、石錐 2 点 (10・11)、削器 2 点 (13・17)、二次加工剥片 1 点 (15)、剥片 1 点 (14)。石材は 13 の玉髄以外はすべて珪質頁岩である。石鏃は 2 cm 以下の小型で薄手が多い。13 は両面全面に加工がおよび楕円形に整えられており、部分的に刃部調整が認められる。形状や使用石材から縄文時代後期前葉の小型石筈とも考えられる。11 の石錐は先端が摩耗している。17 は先端に刃部調整がある。調整が部分的であり石錐として調整途中のものと考えられる。これらの石器の採集地では縄文時代後期初頭から前葉の土器や土製品が発見されていることや、この時期に特徴的な石器も含まれていることから、縄文時代後期に相当する可能性が高い。

謝辞

資料に関する情報を提供いただいた石田家の皆様、坂本洋一氏、本文を査読いただいた工藤竹久氏に厚くお礼申し上げます。

引用・参考文献

青森県教育委員会 1990 『図説ふるさと青森の歴史シリーズ③北の誇り・亀ヶ岡文化 縄文時代晩期編』

青森県教育委員会 2009 『中平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 474 集

青森縄文文化を語る会 1988 『小杉嘉四蔵 蒐集考古学資料写真集〔玉清水 (1) 遺跡〕』

公立大学法人国際教養大学 2016 『大曲遺跡資料 砂沢遺跡資料－新谷雄蔵氏収集資料の報告－』
国際教養大学アジア地域研究連携機構研究報告書第 1 集

鈴木克彦 2015 『遮光器土偶の集成研究』弘前学院出版会

宮 宏明 1997 「いかさま博奕と考古学－サイコロ事始め－」『動物考古学』8 号 動物考古学研究会

村越 潔 2007 『青森県の考古学史－先覚者の足跡を尋ねて－』弘前大学教育学部考古学研究会 OB 会

表 掲載資料一覧

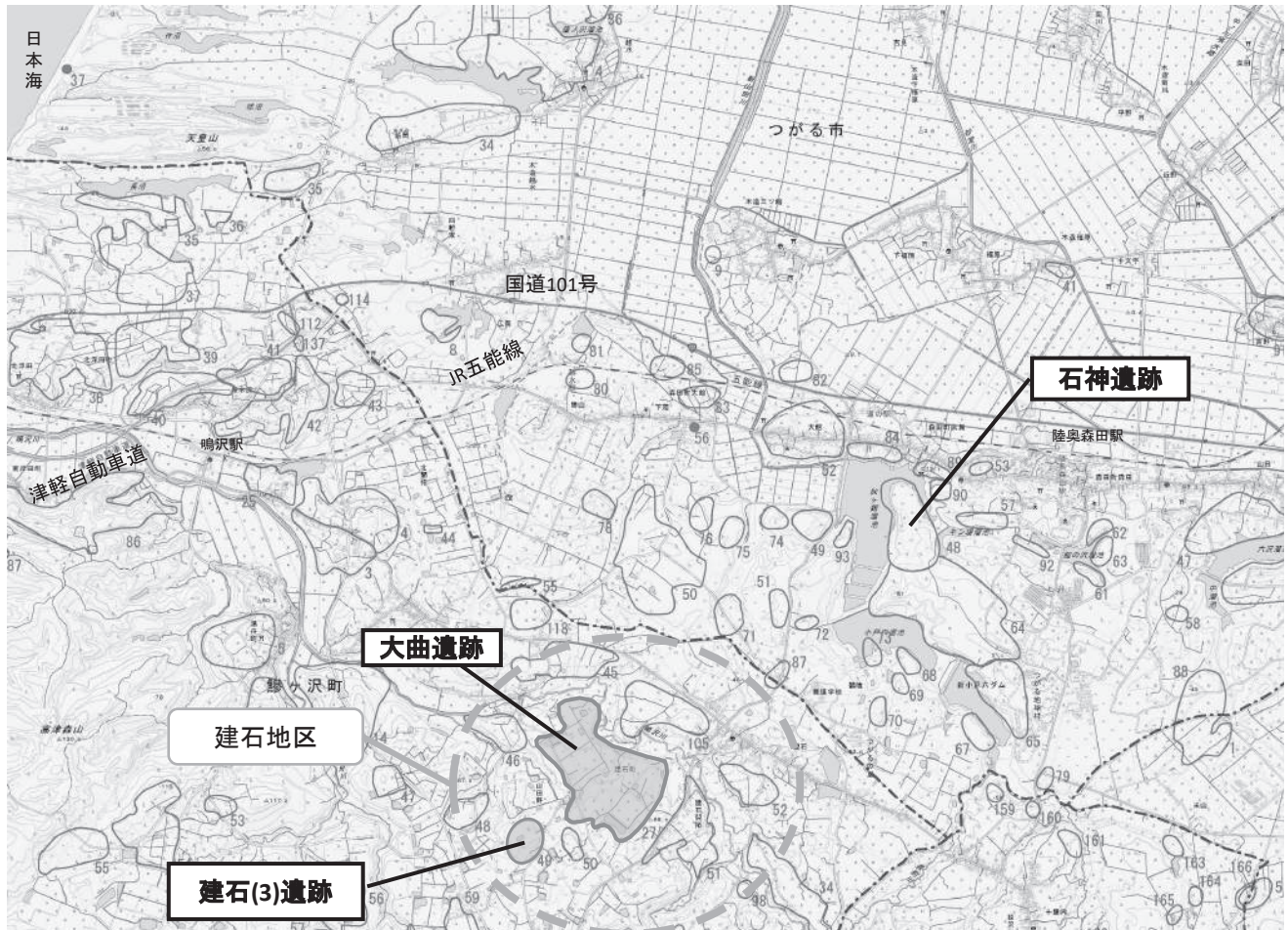
資料区分	資料名	採集地	時代	法量／石材	備考	収蔵番号
土偶	仮面をつけた土偶	鯉ヶ沢町建石地区	縄文時代晩期	高(180)mm 幅(140)mm 奥行73mm 504.8g	下半部と腕部欠損、中空、赤彩粘土の厚さ 5 ～ 9mm	2422-01
土偶	土偶	青森市玉清水(1)遺跡	縄文時代晩期	高(170)mm 幅167mm 奥行60mm 784.0g	腕部・下半部欠損、中実、赤彩	2380-01
土製品	鐔形土製品	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代後期	高さ 52mm 幅40mm 奥行40mm 40.9g	完形、上面に縦方向の貫通孔あり、粘土の厚さ 5mm	2409-01
土製品	サイコロ形土製品	青森市浪岡・中平遺跡	中世～近世	11.5mm角 1.8g	一部欠損	2409-02
石器	石鏃	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長21mm 幅12mm 厚4mm 0.6g／珪質頁岩	完形、有茎平基	2409-03
石器	石鏃	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長19mm 幅14mm 厚3.5mm 0.7g／珪質頁岩	完形、有茎平基、左右非対称	2409-04
石器	石鏃	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長(26)mm 幅15mm 厚5.5mm 1.6g／珪質頁岩	先端欠損、有茎	2409-05
石器	石鏃	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長(15)mm 幅(9)mm 厚3mm 0.4g／玉髄質珪質頁岩	先端・基部・右側縁欠損、有茎平基	2409-06
石器	(石槍)	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長(14)mm 幅(14)mm 厚3mm 0.6g／珪質頁岩	先端部のみ	2409-07
石器	石鏃	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長(23)mm 幅(15)mm 厚4mm 1.0g／珪質頁岩	下半部欠損	2409-08
石器	(石鏃)	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長(16)mm 幅14mm 厚4mm 0.5g／珪質頁岩	先端部欠損、無茎平基	2409-09
石器	石錐	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長(27)mm 幅(20)mm 厚8mm 3.1g／珪質頁岩	先端部欠損、上部に原礫面あり	2409-10
石器	石錐	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長27mm 幅18.5mm 厚7.5mm 2.1g／珪質頁岩		2409-11
石器	石鏃未成品	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長32mm 幅12mm 厚5.5mm 2.3g／珪質頁岩	完形、有茎尖基、先端部に丸みあり、背面は基部調整のみ	2409-12
石器	削器	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長19mm 幅24mm 厚7mm 2.8g／玉髄	刃部一部欠損、小型石筈	2409-13
石器	剥片	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長25.5mm 幅25mm 厚7mm 2.9g／珪質頁岩	完形	2409-14
石器	二次加工剥片	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長38mm 幅19mm 厚8.5mm 5.5g／珪質頁岩	成形途中の石鏃	2409-15
石器	石鏃	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長(19)mm 幅11mm 厚5mm 0.7g／珪質頁岩	先端欠損、有茎平基	2409-16
石器	削器	青森市浪岡・中平遺跡	縄文時代(後期)	長50mm 幅23mm 厚12mm 9.5g／珪質頁岩	完形、先端に加工あり、石錐未成品	2409-17



図1 土偶 (2422-1) 鱒ヶ沢町建石地区

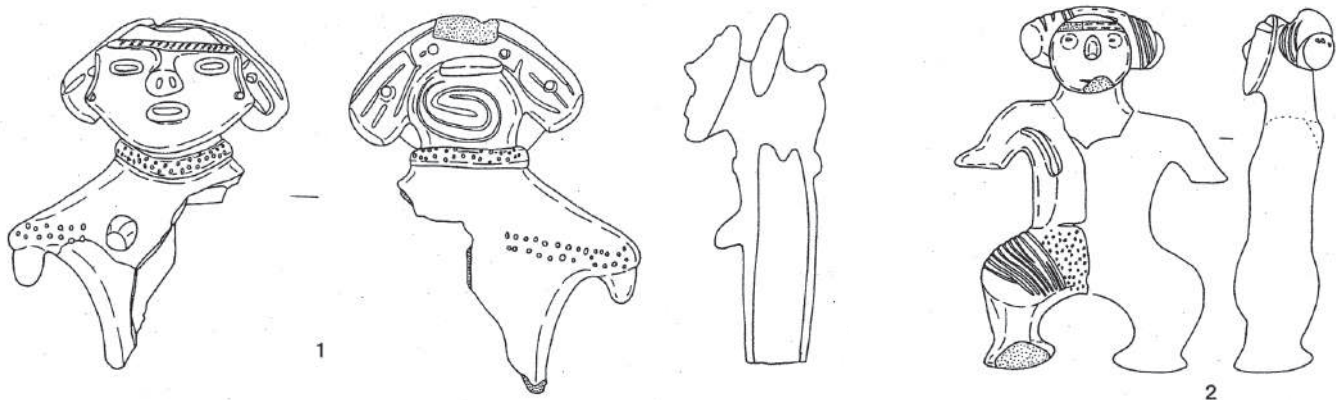


図2 土偶 (2380-1) 青森市玉清水 (1) 遺跡



『青森県遺跡地図』Web版「森田」に加筆

図3 位置（鰐ヶ沢町建石地区）



鰐ヶ沢町建石（1～4）



『遮光器土偶の集成研究』資料編 図23
（鈴木克彦著 弘前学院出版会 2015）
より転載

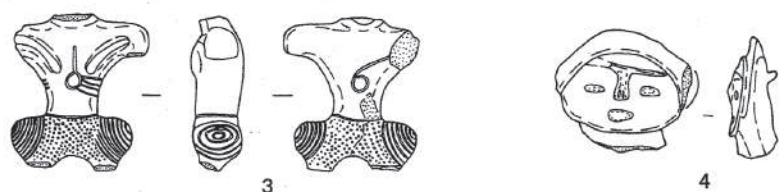


図4 土偶実測図（鰐ヶ沢町建石地区）



①

①写真パネルと土偶収納箱（新収蔵展 2019 時）

②写真パネル（佐藤時男氏撮影、個人蔵）

③大曲遺跡出土土偶（2023-153）

長さ 153 mm 幅 121 mm 奥行 46 mm 中実土偶

弥生時代前期 新谷雄蔵氏旧蔵資料

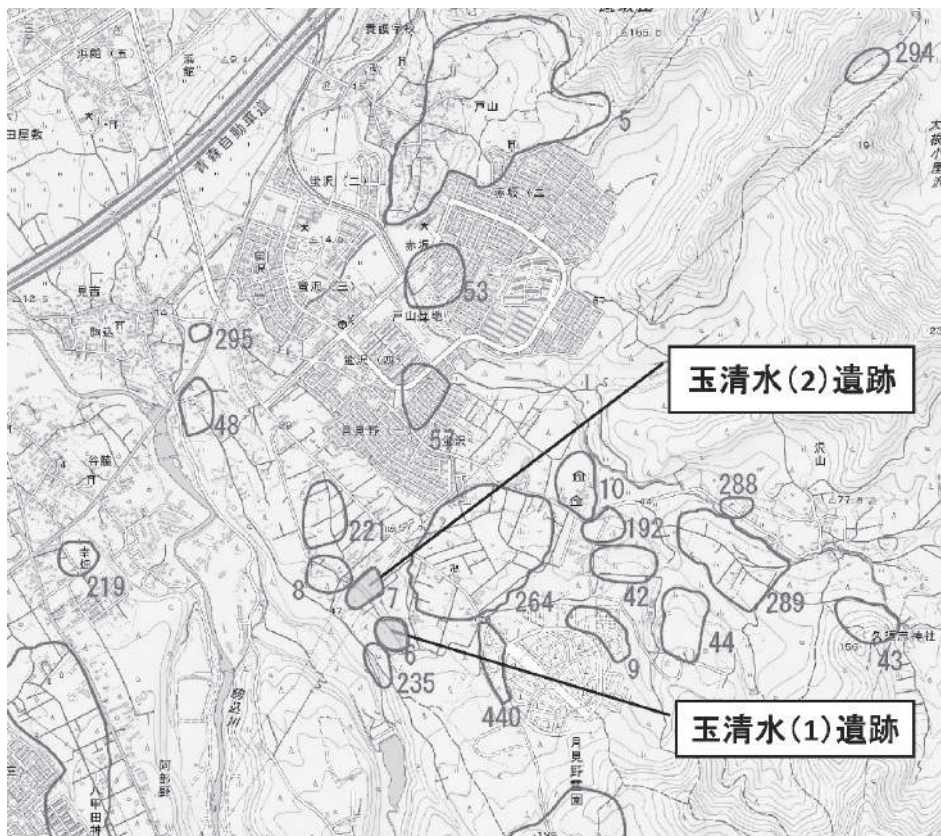
②



③



図5 土偶（2422-1）関連資料



『青森県遺跡地図』Web 版「青森東部」に加筆

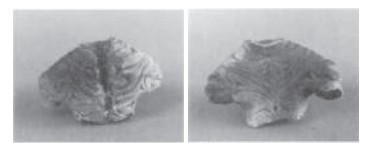
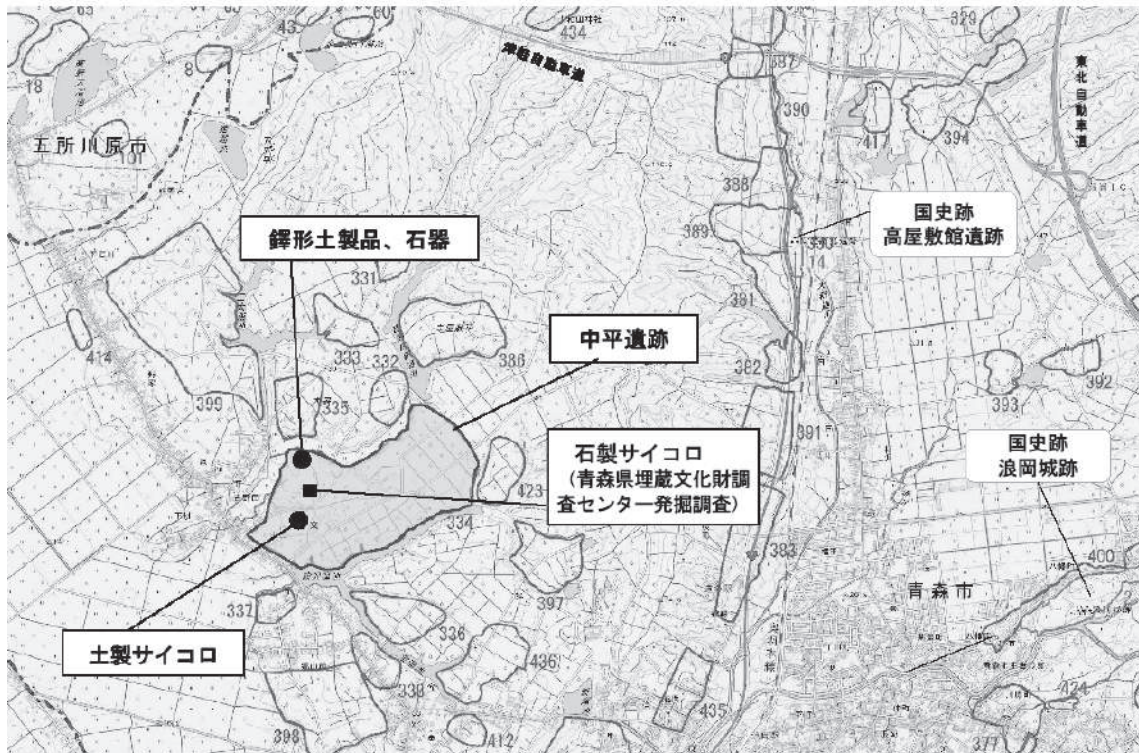


図6 玉清水（1）遺跡位置と土偶（2380-1）関連資料



『青森県遺跡地図』Web版「浪岡」に加筆

図7 位置（青森市浪岡野沢地区）

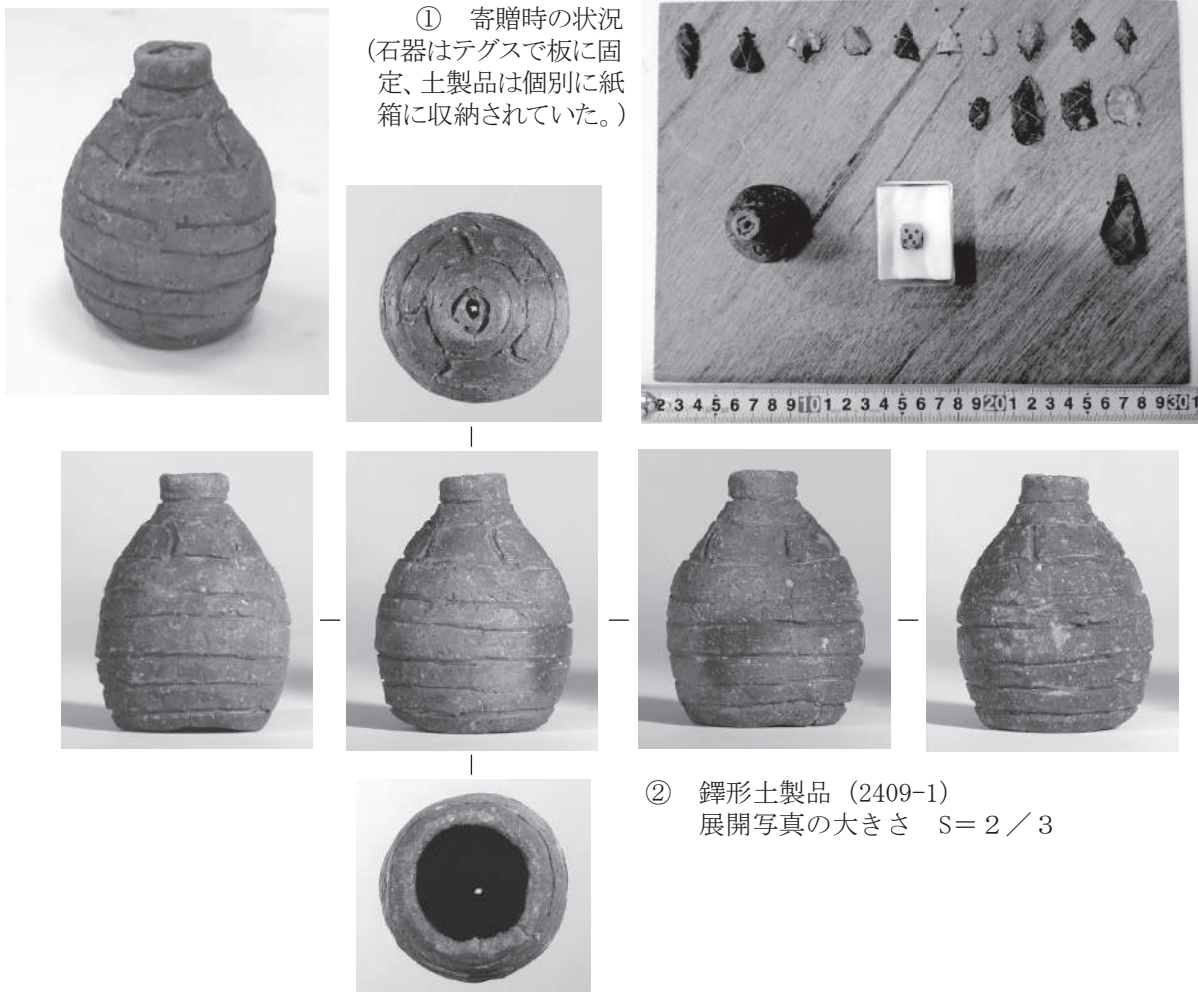
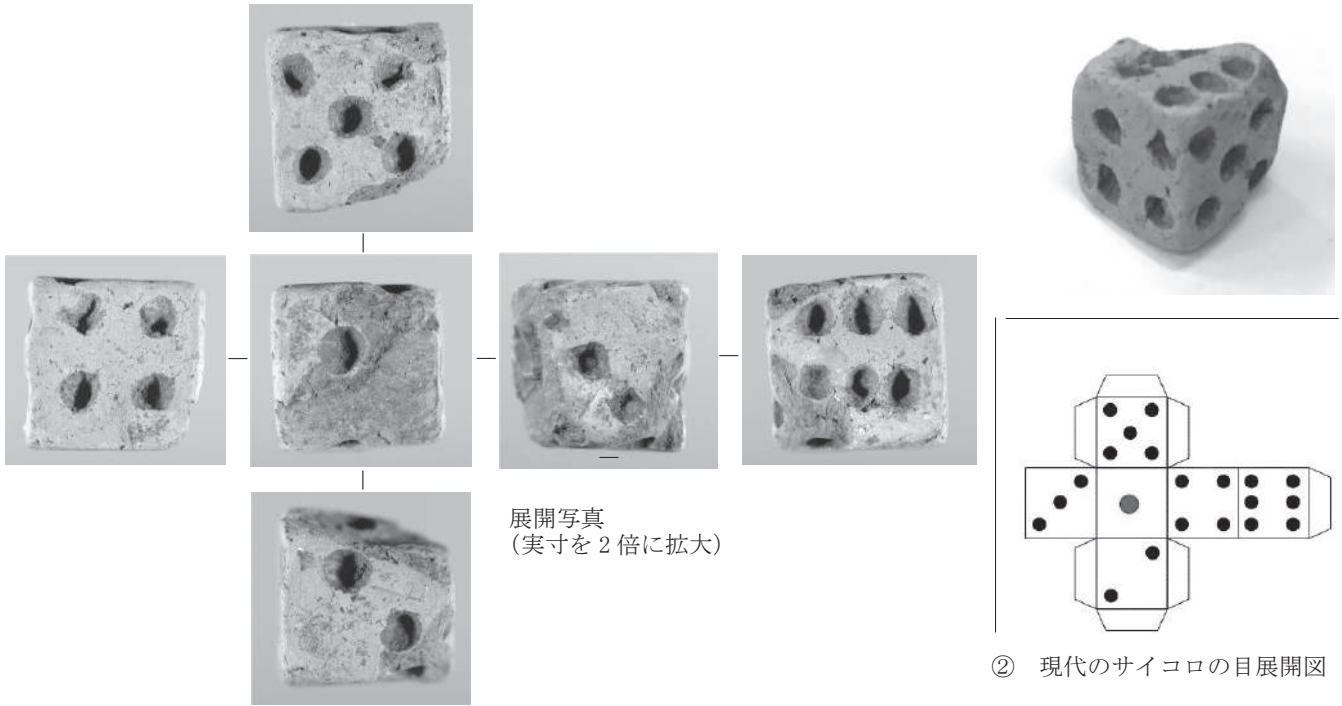
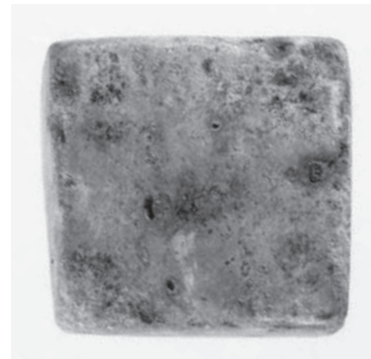
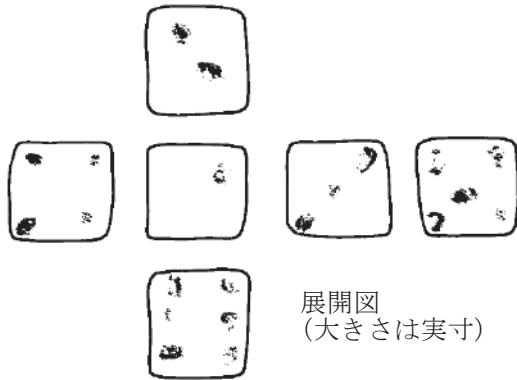


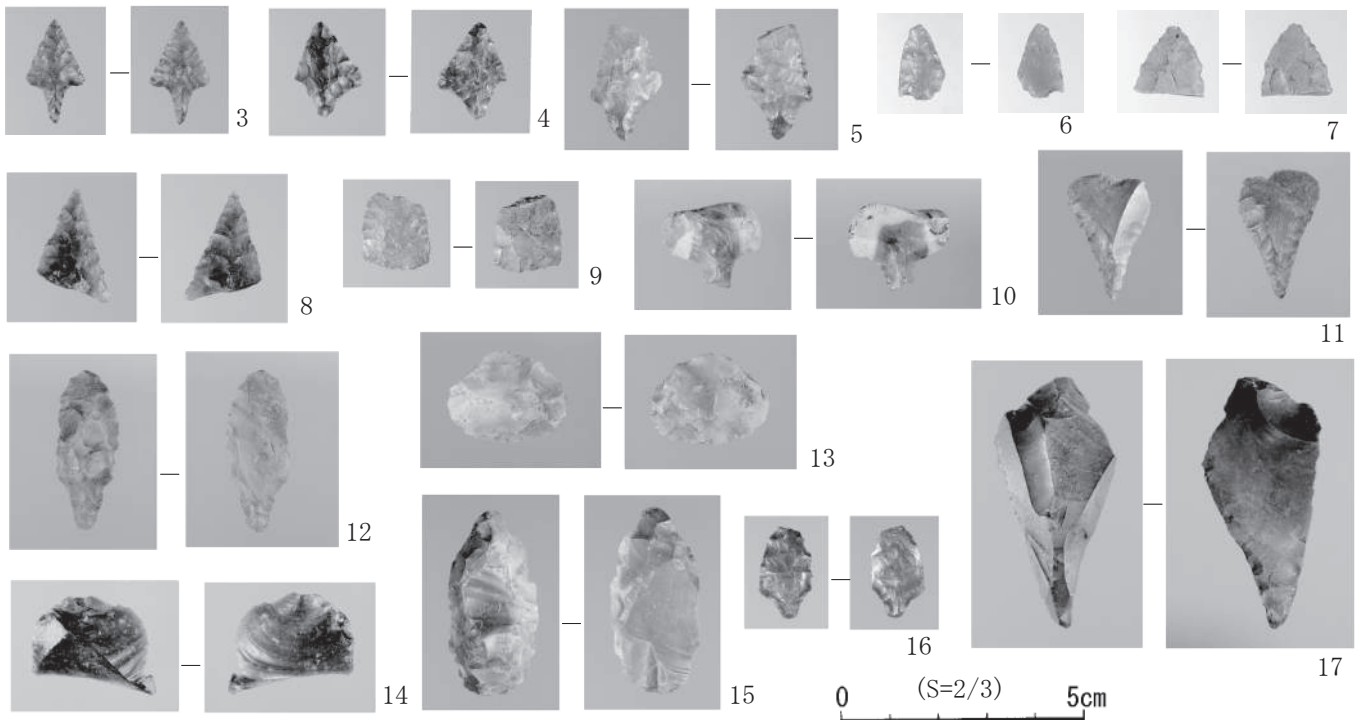
図8 資料(2409)-1



① 土製サイコロ (2409-2)



③ 関連資料 中平遺跡出土石製サイコロ (資料所蔵および図・写真提供は青森県埋蔵文化財調査センター)



④ 石器 (2409-3 ~ 17)

図9 資料 (2409) -2